

## 文芸さんむとは・・・

「文芸さんむ」の前身は、旧山武町の文集「すぎの実」である。その創刊号までには、こんな経緯があった。「すぎの実」は長年に亘り町民生活に根差し、愛読されてきた存在だったが、山武市の発足により惜しまれつつ廃刊になった。

その後、「再び文集を」と、「すぎの実」関係者を中心とした方々の熱意と努力の継続が文集復活の決定に結実し、平成二十二年二月、新しい市民文集「文芸さんむ」として生まれ変わった。

文集の主管は生涯学習課で、「この気持ちを伝えたい」をスローガンに、市民なら誰でも自由に投稿でき、文芸を通じて研鑽・交流を図り、市民文化の向上と継承に繋げることが趣旨である。

## 文芸さんむ応募要項

### 1. 作品ジャンル【複数ジャンルの応募可】

- 短歌（7首限定）
- 俳句（7句限定）
- 川柳（7句限定）
- エッセイ（ひとり1作品のみで、原稿用紙8枚以内）
- 評論（ひとり1作品のみで、原稿用紙10枚以内）
- 短編小説（ひとり1作品のみで、原稿用紙15枚以上25枚以内）
- 詩（1作品につき原稿用紙4枚以内。ひとり2作品まで）

※原稿用紙の枚数及び応募作品数は必ずお守りください。

### 2. 応募資格【18歳以上】

- ◆ 山武市民（元市民も可）
- ◆ 市内在勤者（元市内在勤者も可）
- ◆ 市内在学者（元市内在学者も可）
- ◆ 市内短歌会員・俳句会員

### 3. 注意

① 投稿作品は文芸さんむに掲載されます。ただし、応募数や内容によっては編集委員会議で検討し、掲載の制限をさせていただきます。なお、投稿された内容が本誌の作品ジャンルに合わない場合や字数がオーバーする作品は掲載できませんので、ご了承願います。

② 各ジャンルの作品は、1話完結するものとし、連載となる作品は掲載しません。

③ 原稿について編集委員からお電話をする場合があります。

④ 写真や図は掲載しません。

⑤ 作品が掲載された方の文集は、原則窓口にて配布します。

なお、窓口でのお受取りが困難な場合は、投稿時に生涯学習課にお申し出ください。

⑥ 掲載された原稿は、普及の趣旨から各機関からの依頼による公表や市ホームページ等に掲載することを承諾ください。

### 4. 応募先・応募方法

① 山武市教育委員会生涯学習課（〒289-1345 山武市津辺262-1）まで、原稿と応募用紙をご持参またはご郵送ください。

② 応募期間：毎年5月～8月31日（必着）

※応募期間外の投稿は受け付けませんので、ご注意ください。市広報紙やホームページ等で最新の情報をご確認ください。

④

作品タイトル

殿台生涯太郎

≪ 投稿のきまりごと ≫

① 作品は未発表のもの。

② 各ジャンルの作品は、一話完結するものと  
し、連載となる作品は掲載しない。

③ B4サイズ四〇〇字詰め原稿用紙に縦書に  
清書すること。パソコンやワープロの場合は、  
原稿用紙ウイザードの四〇〇字詰め原稿用紙  
に設定すること。

④ 作品の冒頭に、タイトル・地区名・氏名ま  
たはペンネームを明記すること。

⑤ 引用文献や出典は、作品の最後に必ず明記  
すること。

⑤

参考文献や出典など

・ タイトル名 著者名 出版社名

・ タイトル名 著者名 出版社名

※コピーしてお使いください。

きりとり

### 文芸さんむ応募用紙(1作品につき1枚提出)

ジャンル	原稿 枚数	枚	作品 タイトル	
	ふりがな			
氏名	ペンネーム (希望者のみ)			
年齢	□18歳～29歳 □30代 □40代 □50代 □60代 □70代 □80代 □90代 □100歳～			
住所	〒 ー	電話番号		

◎市外の方へ・・・ 右のいずれかにチェックし、名称 を明記してください。	<input type="checkbox"/> 元山武市民	<input type="checkbox"/> (元)市内在勤	<input type="checkbox"/> (元)市内在学
	<input type="checkbox"/> 市内短歌会所属	会の名称:	
	<input type="checkbox"/> 市内俳句会所属	会の名称:	

※応募期間は山武市広報・ホームページ等でご確認ください。

## 編集後記

一二月某日、千歳空港に降りた。外は酷く寒い。「今日は一番の寒さか」と尋ねると、「一番ですわ」と迎えに来た甥っ子がいうので納得した。墓がある室蘭の途中にある白老「ウポポイ」を見学することになっていた。「ウポポイ」とはアイヌ語で「大勢で歌うこと」という意味だという。ウポポイの施設は『存立の危機にあるアイヌ文化の復興・創造等の拠点として、(略)将来に向けて、先住民族の尊厳を尊重し、差別のない多様で豊かな文化を持つ……象徴となる空間だ』と説明している。

アイヌが編んだ装飾品や狩りに使う弓、矢じり、土器が展示してある。他に、伝統的コタン(集落)のチセ(家)でアイヌの口琴を聞くこともできて、甥っ子たちは喜んでいた。

しかし、アイヌから尊厳を奪い、差別した側の視点はわずかに慰霊施設のウシがあるだけで、現実のアイヌは和人と混合して、様々な差別を感じながら、純粹アイヌは消えてゆく流れにある。文字を持たないアイヌは、自らの歴史を発信できないのである。

もし、アイヌが文字をもっていたならば、文字は北から降りて、大陸から漢字を得る前にアイヌ文字が使われたはずである。変体漢文で書かれた『古事記』はアイヌ語と混合して表され、日本歴史は我々が見る歴史ではなかったはずだと想像してみた。

『文芸さんむ』で使われる文字は、漢字・ひらがな・カタカナ・ローマ字・外来語が紡がれている。文芸は文字による表現によって作者の思想と批評、皮肉とおかしみなどを表わしてくれる。文字を持たない民族と違い、文字を持つ私たちは、作品を大勢の人と共に「ウポポイ」できる人なのである。

アイヌは人を殺傷する武器を持たない民族であるという。現実には武器を製造し戦争を好む民族に虐げられている。文芸は、力なく見ている側のせめてもの抵抗の記録でありたい、と思ったのが今回の見聞であった。(工藤)

## —— 編集委員をやってみませんか ——

多い時には十六名の編集委員がおりましたが、高齢・健康状況等の事情により現在は十二名と手薄の状態です。特に松尾・蓮沼地区には一人ずつしかおらず、ギリギリの人数で編集の仕事を進めています。

実働期間は、九月から三月までの半年間、五回の編集会議と必要に応じての部門別の校正点検が主な仕事です。

新風を吹き込み活性化を図る意味で、ぜひ新しい編集委員の方々の参加を待ち望んでいます。

希望される方は、生涯学習課までご連絡ください。編集委員会にて正式決定します。

山武市市民文集 文芸さんむ ― 第十五号 ―

編集委員

- ・ 工藤 進 (編集委員長)
- ・ 秋葉 重一
- ・ 今関 恵子
- ・ 鶴澤 美知子
- ・ 大掛 史子
- ・ 川島 隆
- ・ 佐瀬 智
- ・ 高浦 なみ子
- ・ 竹内 克隆
- ・ 立川目 陽子
- ・ 根本 綱造
- ・ 安井 はる子

(題 字) 中野 日賀

(表紙絵) 宮野 たいち (成東中一年)

(タイトル) 上空から見た日本(一)

ご感想やご意見をお寄せください

皆様のご感想やご意見を参考にしてより良い文集に育てたいと存じます。文集全体に関わること、ジャンル別、作品別等々貴重なご意見ご感想をお待ちしています。

提出先 山武市教育委員会 生涯学習課

山武市津辺二六二― 成東中央公民館内

電話 ○四七五―八〇―一四五―

FAX ○四七五―八二―二〇五八

メール shogaiyakushu@city.sannu.lg.jp

山武市市民文集

文芸さんむ ― 第十五号 ―

令和六年二月発行

編集

山武市市民文集編集委員会

発行

山武市教育委員会

山武市津辺二六二―

成東中央公民館内

○四七五―八〇―一四五―

印刷

山武印刷有限会社